

「生命（いのち）の安全教育」実践報告書

活動名	いのちのはなし		
学校名	二宮町立山西小学校		
学年	第6学年	人数	64人（2クラス）
日時	2022年10月17日（月） 10:40 ～ 12:20		
取扱いの分類	外部講師		
講師	助産師		
学習のねらい	自分自身のいのちの始まりから誕生までを知ることで、「自分のいのち」＝「自分」が、かけがえのない大切な存在であることを実感すること。		
内容	<p><はじめ> 自分にとって一番大切なものについて考え、いのちは一つであること、そして、失ってしまったら、どんなに願っても戻ることはないことの話があった。そして「いのち」とは何かを考え、講師からは今生きている自分の心、体、気持ち、自分の全てがいのちであると思っていると話があった。</p> <p><なか> 誕生までをスライド資料や人形等を用いて説明があった。受精卵の大きさを実感するために、一人一枚折り紙が配られ、中心に約0.14mmの穴が開いており、光にかざすことで自分の始まりを実感する工夫があった。また、小さな綿が配られ、受精からだいたい40日目の大きさを実感する工夫もあった。さらには、胎児心音を聞き、今の自分との違いを考える場面もあった。</p> <p><まとめ> いのちを大切にすること、自分の全てが大切であること、そして他の人を大切にすること、生きているだけで100点満点であることについて話があった。児童は教室に戻り感想を記入した。その後、参観に来ていた保護者に対し、思春期で子育てに悩むこともあると思うが、保護者自身も自分を大切にしてほしいなどの話があった。</p>		
成果	このような機会がない限り、自分の誕生から今に至るまでを考えることはあまりなく、いのちの大切さについて、改めて考えることができた。また、いのちの始まりからの成長を実感するための手立てが多くあり、本時のねらいについてそれぞれが考えることができた。		
課題	いのちはかけがえのない大切なものであり、児童は改めてそのことについて考えることができた。今後も折に触れていのちについて考えていくことが大切であると感じた。		
性に関する指導の手引き参考箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の安全教育 ・外部講師を招いた「生命（いのち）の安全教育」実践事例 		

